

花傳書 五

特別
子 12
3606
5



持
412
3606
5



うれ終とつふ事 夫更坂花の志んよたとへ
役者を下草よりとふ也 夫更い一屋乃大物
屯れ志んあきいつふもく下草より伊勢乃
あるやうよもてあまへしすこ大夫より下草
相應するやうよはねへし大夫徳藝をうめ
すして一なるわらわしい花乃志んとい女が
よひくもろ所の見ちくくもあき横よいけ
へしまる終とつふ本意いおもるき坂本とい
志こて見らぬけ進いみとらあ衣襲乃
きやうよめんあけ進いそあみく進ぬ抱也
たとひ上よくわとつふ志こあけ進い
牙研りー屯さきうー上中下席破急の終乃



一 舞々老人のお立ちのよもしくとくはこころの
あし乃小袖もつともよもさうわあう上つら
あくいまでいきいおまところへし小袖の色よもり
ええあひんやうよ出つらへし但上の袷染よ
よはへし終よよはへし

一 ひこ面の出立の事つよもしく下をまくと
おうちうて上をくすも下かさひ子丸あひは
やうふつしたちる肝栗也古あう人よもり
そ身小似合ころ小袖あわ又ふあうぬころて
あわもみあうせうんよう也又大夫のとこ此
かとろひもよはへし

一 様僧ひやく志まてすころ志かきころあ衣よる

一 一交をむまふ僧或い信取の僧みやこころは
僧いづふもく引けくろひ志めんころこ
水衣小袖をきと志こはをちやむへし

一 僧初は系阿耨梨上人うれ僧いづよもけたく
為考よひきけくろひいづよも水衣もんきと
ころ袷染まへし時よより大口きるころあわ
一 草のせい本れせいそおつんけ乃物のあるひ
お立何とおうちうてもとあしあう

一 鬼のお立ちのよもしく志わおかくりきひをも
あつと出立るるんようなわつらおもく
あうくころと出立かすわ

一 袂のふりりきねあかくたう目きころあう下

かさのいづれもく多くと死あいらえあひ
らやうまつてたち肝要なわうわきぬあ
あういうまきいづれもきこしき小袖を
花傳才七歌の巻なりもいろ乃らやとあき
けくあもげ理りなわ

一面のうけやうさゆら八幡あとりめハ尉の
面は目より入ころちやき男乃面なわ
さりあううまきやそろいころ時いすちれ
めんあときは事ありまちおとられときい
くくわなを意なるへし

一天冠いこくも終いそら乃物てなわ但菩薩乃
能るういていあんの女面なるへし付ういひ乃

位よりりて又ていあんきぬ菩薩あり

一通小町菴戸あきううふうきいづれも
買乃やせ男なり但志の内より通小町ハ面の
いもちちうひんそ子細いぶ家也深草のすね
急りやうきころうかききい面けたらきを
もちつる也終いいきききうあとのうき
世乃わきよ屋つき死ころうかあれハ面よき
いねまへし是いおかきあるちうひ也い建乃
能も位を分別し上層下層をわさす人そ年比
またも分別をとけ似合ころ面可然也衣服乃
きやうも同あなわまき綿本あきうちうあ
是いあまわり下うあはあれうれう人急務もて

死なむと云ふかよひこまうちうとふのあひひこ也

一 定家ひりきうと云ふこまちあまのち何もやせ
女なりちあうと定家の式子内親王ひめみや
あてましまひ君りかたえきたくやせうら面
なり幸都婆小町ひりきいけい屋一くやせうら
面志うけつくら何もい屋一き終まはあう終
とも式子内親王まはくくへかう一ひりきい
白拍子也ま上と一りなりわ小町い一りめい
宮女あま幸都婆老て粗乱とありた食まあまは
女なり海士のはい終をい一きく合つひの
やせ女あくいとわあひんいまらいつらももめ
すきま一く目うひ入ころ女可然んはらもち

いりまへとわらう

一 草木のせいそがまけ物の中ひときよら
らまらまらわらやまてよらわおまかまら
へまらまらまら

一 乃成ち中なり乃志やめん鉄橋あまなり可然
らあひひの上い中なり乃志や面むよら

一 せうの面乃舞終いしりまもつらまうひやう
志志うけへ

一 ゆやいこおもて也

一 松風いあういおもて也

一 鞆馬天狗はへみ也まらわくせうきる鞆一
大へ見大あくせうのまら一りけ大事一也

おさまてちうふへし

一うろひ昭憲及大天神なわまこへしこきる
事もありさういたう此鬼なわたまのいもち
せうらんよとこかけら也

一お祓乃ふくらるひけ也

一ふちとのおよやせ母きほるあり又うたれ
面きる時もありたまのころもちうとちうめ
るおさますこちうあなわ

一うたまのおあふひの上のおの面のやせくる
女乃おれもあきききしてまはすまきき
みて目もとまきき女面をきく也

一おれのあるい終まうりてちうあへしたまの

とをまいたおれあへしおとふけころうかの
おれらまころ面むる

一お波乃梅系あへりいたおれとこまてんたう
かありまて破の舞なり余れ度いあくせう
あくはもありあくせうの時いあくまふ也
おさまちうあへし

一さのゆりあせうなわはらうひせうなわ
一とゆるあせうひせう也中お也

一たむらお童子なりはたおれとこり三ヶ月也
平太らげぬ也田村い祝云乃備後なり平太い
祝言ようげぬ面也目き能あまうげらる
大きなるひらことなわ

- 一 くのりあわらひせう也中おなわ
- 一 女良も同お也わつたれとくゆーあしひ
- 一 八幡んちもわあひまうひせうもまうー小尉も
- くゆーひはいつりまもりやおとこなわ
- 平太くゆーうま
- 一 つまさ中お也わつたれとくゆーうま
- 一 まりまささうーめいさうひせうは入るれ面
- 一 うめあひふうひめんこ物そなわ
- 一 あつちこれめん也
- 一 春日就神おせう也又ひこ面もてするも
- あり小せうまうまうは後らあひけなわ
- 一 せうらん乃あおせうはいりーまう

- 一 遊り柳あひせうはいりーまうなわ
- 一 淨觀揚貴妃あひせうはい大天神なわー
- きる事ーもあわあくせうもりー
- 一 志しひけあひあこせうはいあくせう也
- 一 あー山あまうひせう也は大へー見大天神
- も可然々
- 一 竹乃言あひ面也裏傷乃祝云なわ
- 一 善界のは大へしみ後大舎同あ
- 一 定家のはふりひ面なわ
- 一 三輪あふうひめん也こ物もて
- 一 唐船うひせうなわ
- 一 あらき乃あ小せうなわやせ物也

- 一 夕うがあふらの女はいふくひめん也
- 一 幾大鼓ふくめんをわ
- 一 東の羽あふくひせうはあくせう也
- 一 くきふくあふ見乃女はあふく面なり
- 一 玉うくくああふみ乃女は小物もて也
- 一 聖のみやおあまの女はあふく面なり
- 一 江口まへあふ面のちいさう也
- 一 ぬえあふり女面あふく何まそもくゆく
- 一 ていかにまきかむ女は無男也乃ち鬼
- 一 ぬえあふくやせおとこのちきふとひて也
- 一 やくく賀茂あふく女は大天神くろひけ大とひてくゆく

- 一 舟弁あふく物そはいせう乃面也
- 一 あきうがさう乃めんなり
- 一 うれねあふく物もてはいていけん也建う哉いこくとききい同くあき面あふく就いこたり建はたやもちうあふくすうすうすうきめん
- 一 おま乃あふくめんなり
- 一 張良あもせうは大あくせう也
- 一 尚麻あふくはていめんなり
- 一 井作あふくすわもの面なり
- 一 ぐくろもさうなり
- 一 寢堂のともあふくあせうは大あくせう見も

すう同お

- 一 うらふのおおせうはやせおとし也
- 一 をたむくおいあふらの女はい老母れやせ女也
- 一 依菴次信平太なわ
- 一 こひひくおいさうひせうのちい平太
- 一 水鏡の梅くしめあふれ女はふれもて也
- 一 自光居士東屋居士大唱會也
- 一 花月いこうくきなわ
- 一 千壽ふく面なわ
- 一 ちせを女面つりもく海くく
- 一 源氏供養おこたもてはも小おもて也是い面
- 一 人むおあー面おはきるる子あありあひ

あわりうれ面影いきのふくきくこまよ

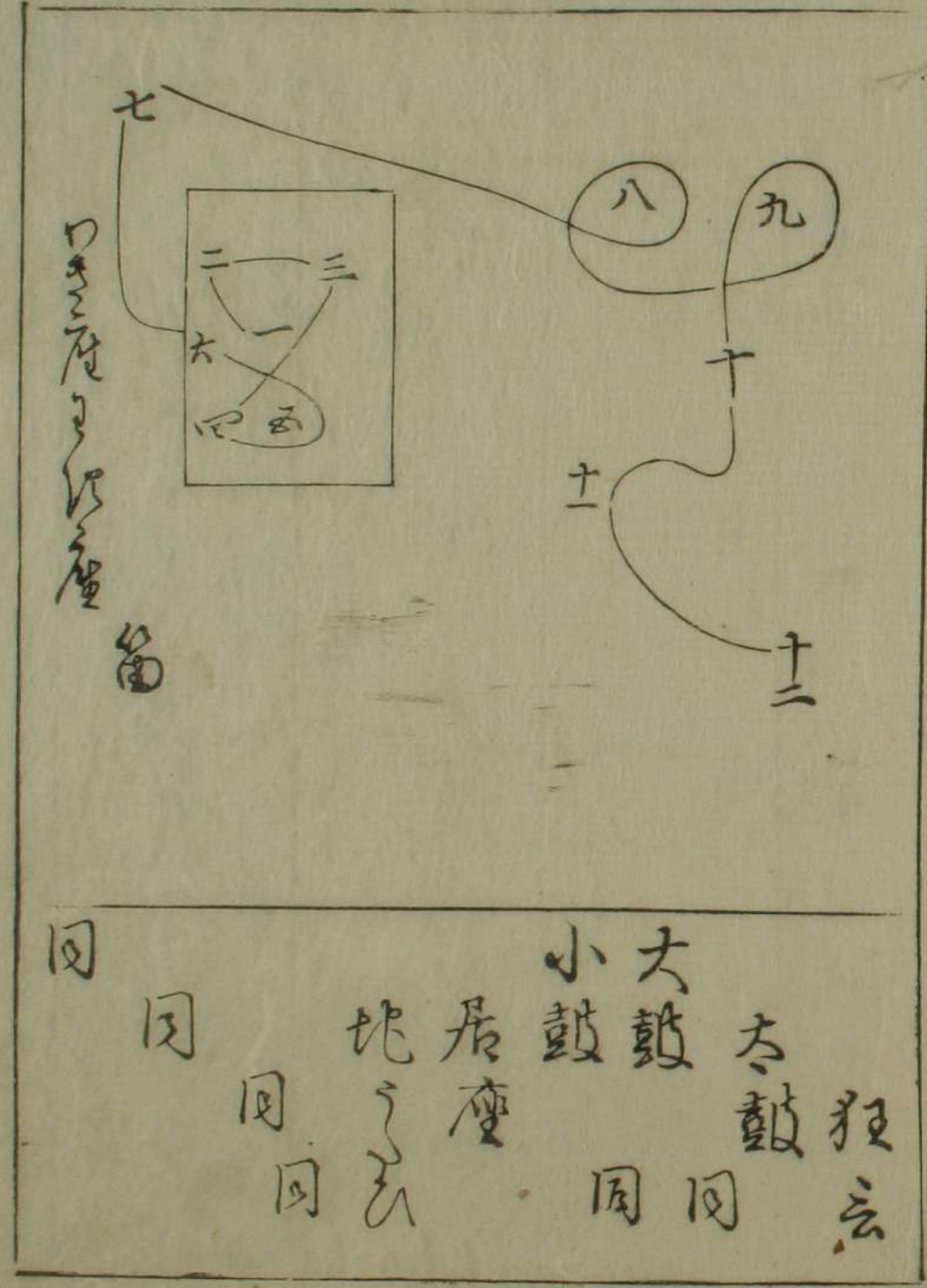
- 一 一帯お能の事一大都考人の信おのけいいま
- 一 考人の信くへいをすくつけくへいあ
- 一 志そこあひあーたえいわらおかきまのくま
- 一 考人をうやまひころふせいをいもちまこ
- 一 考人をあてり人甲わりいこりの帯あり
- 一 さまやあとしてりあおいつひよい上面りこへ
- 一 むきむる仕舞ありとりよとも清おあともい
- 一 是城まける也か横の分別より信よ渡るへ
- 一 是才一内おの能のいお也是拍子たくさんよ

あむる通がなれ考人のうきへうろ成むき
らるる同お也熱別つひ乃終も上面へい
ろをせは又所おの終も大吏舞臺をわけて
所おちうくまふ事一ありその時の離一大事
なり大吏のとをさうり舞ゆく程たくさん
たやまへ一位ちうふる終は侍あるへし万
所おの終流るに成つけく人の時よつて
か来たんあ侍物なれ日きつまよいころま
たのころけ所おまて肝要なれそ人あ
あひ乃あきのふをゆく組合らんせん也
二日と三日もまふらわら此のふを
あひくふうそさあひあきさうり

ころけ肝要なれ所おの終よりきくらけい
りともそあへさあひ亭まへのさ合を
終くこの時由断をくりんあかん志ん也
一那鄂のまうりあふあわとりふとそ
枕よふまなり祿まうねりりころ風情大
なわら此時七目成あさうらねあわら
目をあさく事一あひ也
一りんこんのわくの事まくらをとわるとき
笛乃席あわころの臺乃うらまて席破と舞
たいをわけて破急と舞るせい舞乃姿を志
さ侍也三位を二位より一笛乃あひあり
大吏もそいねあへし十二位のあく此まひ

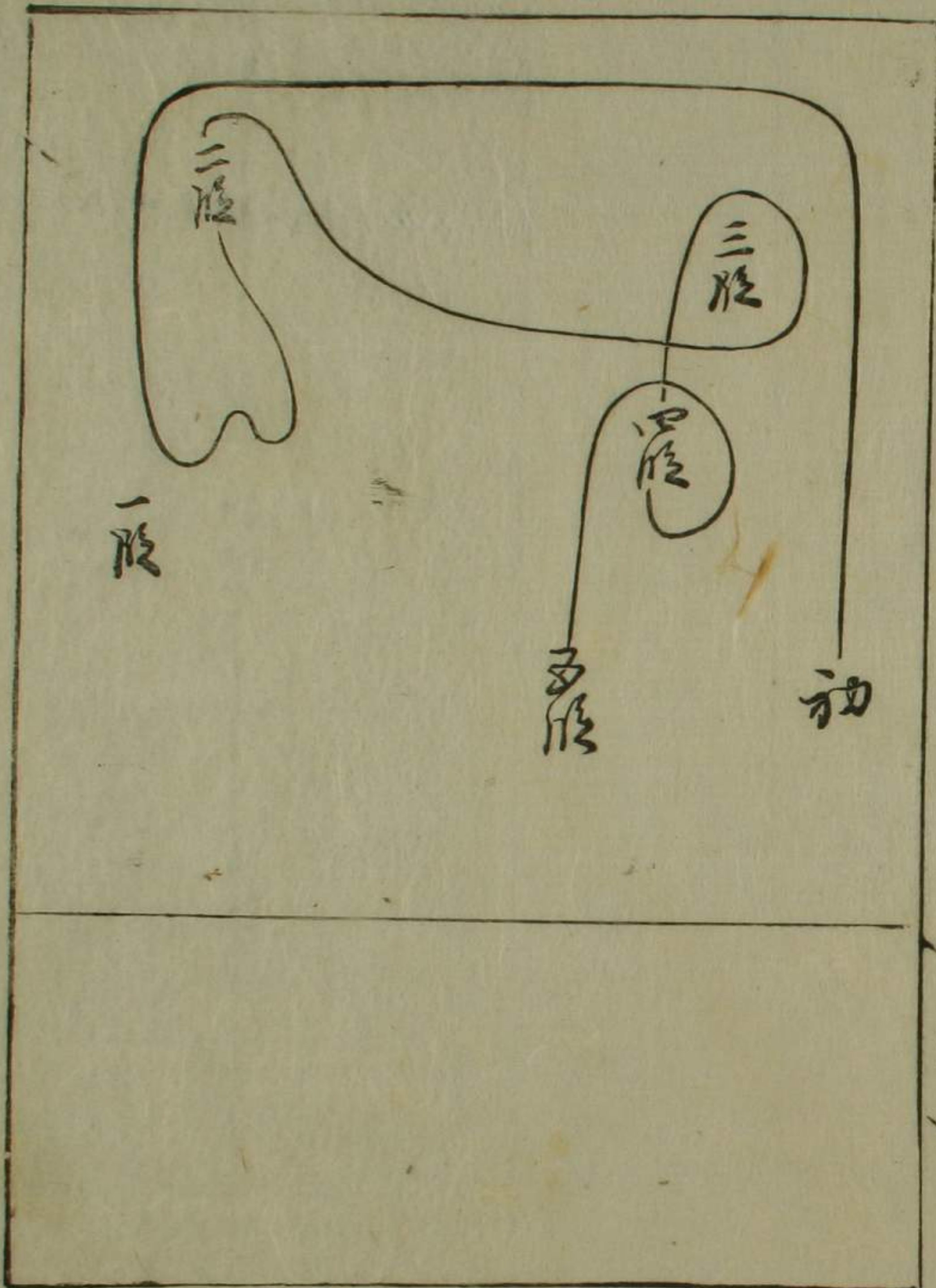
とくろの繪圖大くかろのし〜
 かく〜ひ物部一大事一乃かく也〜
 約判有わ亦一あ〜きかくなれい〜
 以故多〜いす急〜り又〜まりすき〜
 事一あり〜ろ〜け舞出〜人時〜り分判
 してまふ〜と〜ん〜也并を臺乃内〜の
 舞大〜也ちい〜舞て〜曲〜れがき〜
 舞〜人い作わ物子所か〜る〜分判要判也

耶鄂乃わく十二色のかく



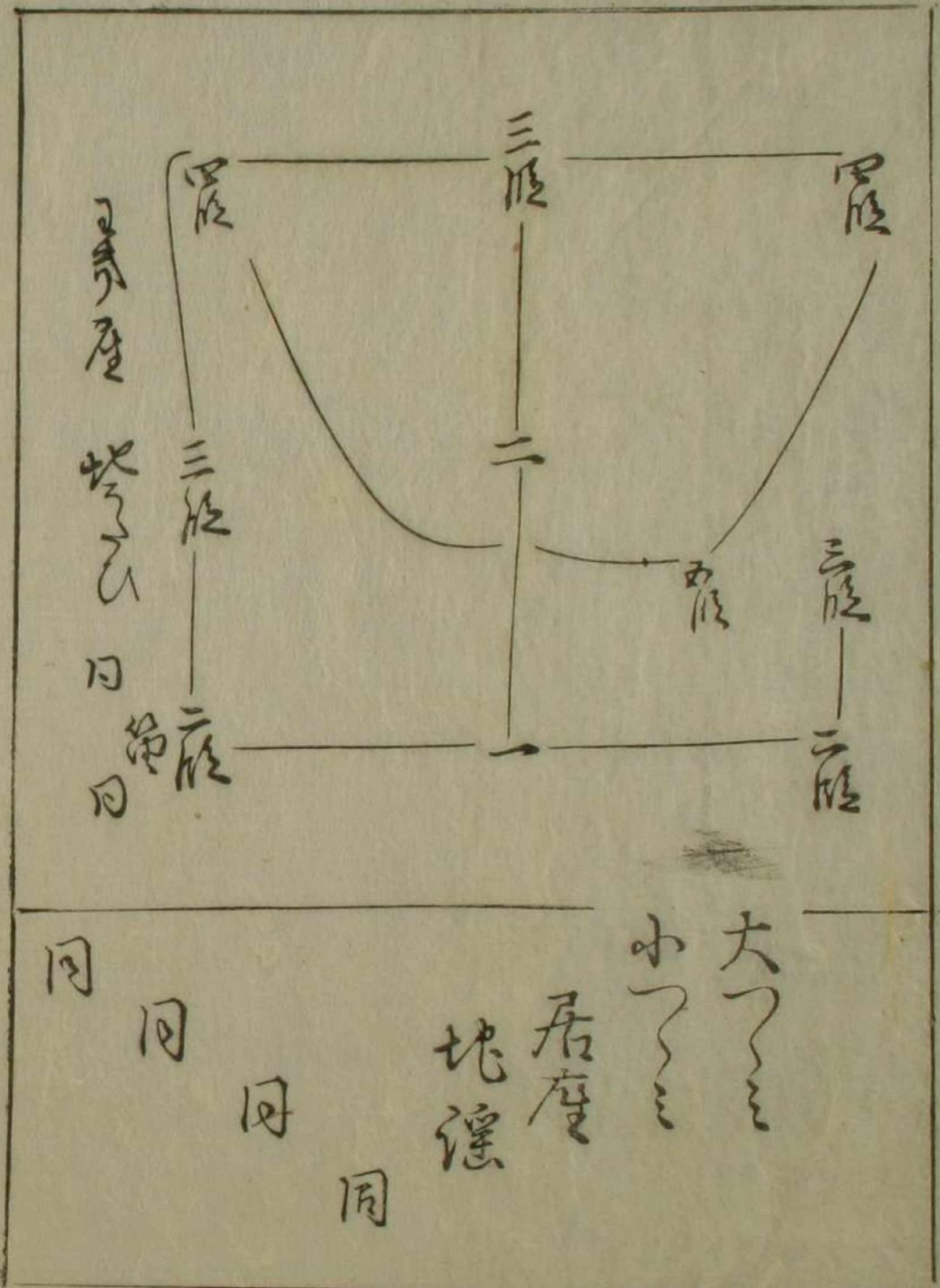
口々々々々々々々々

備



種殊此の破の殊多ハ替有

了所
これ
鄭波
八幡
少
鶴羽
那小松
少

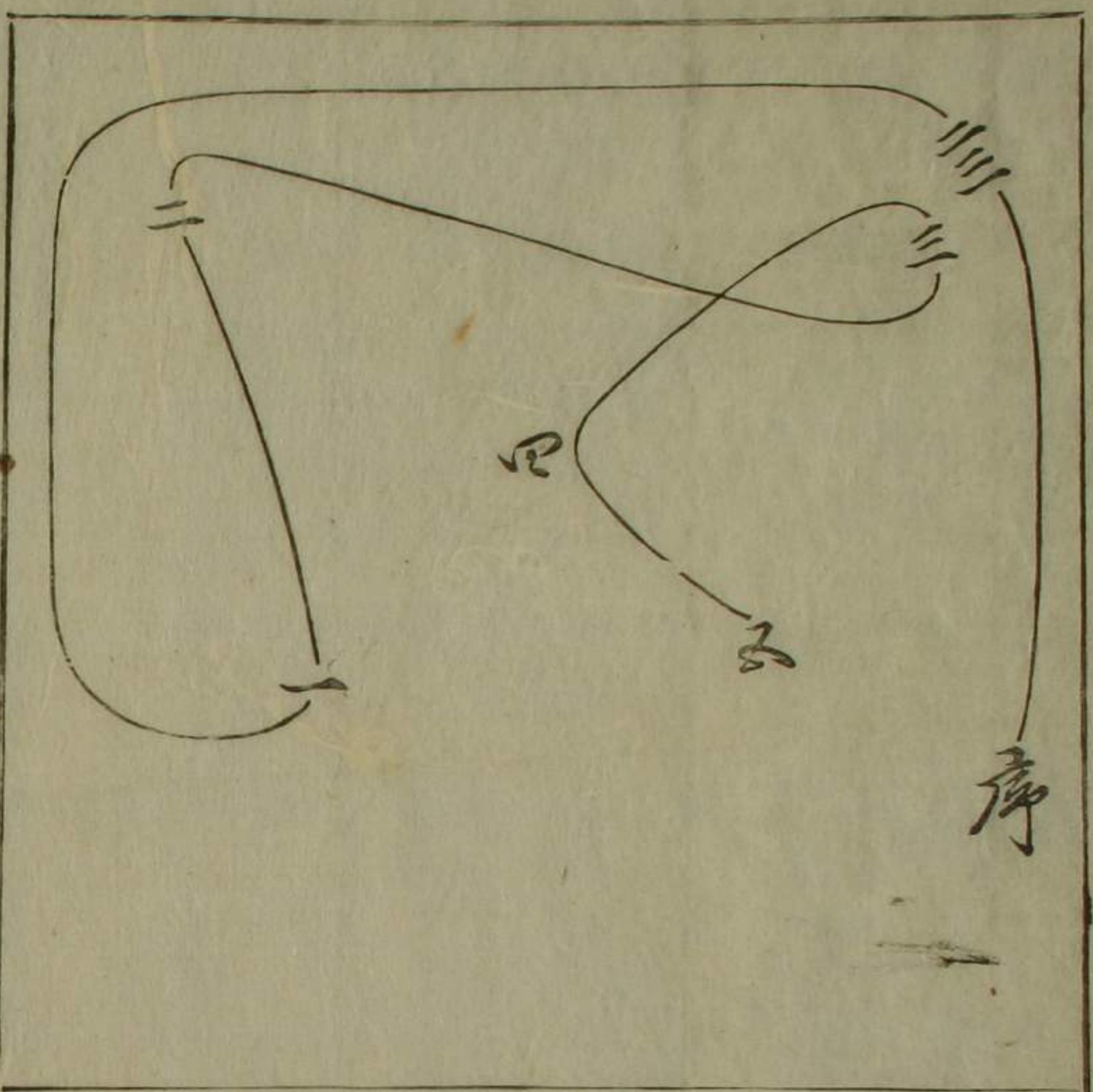


さうりん乃殊合九股

同 同 同 居座 地隠 大 小 同

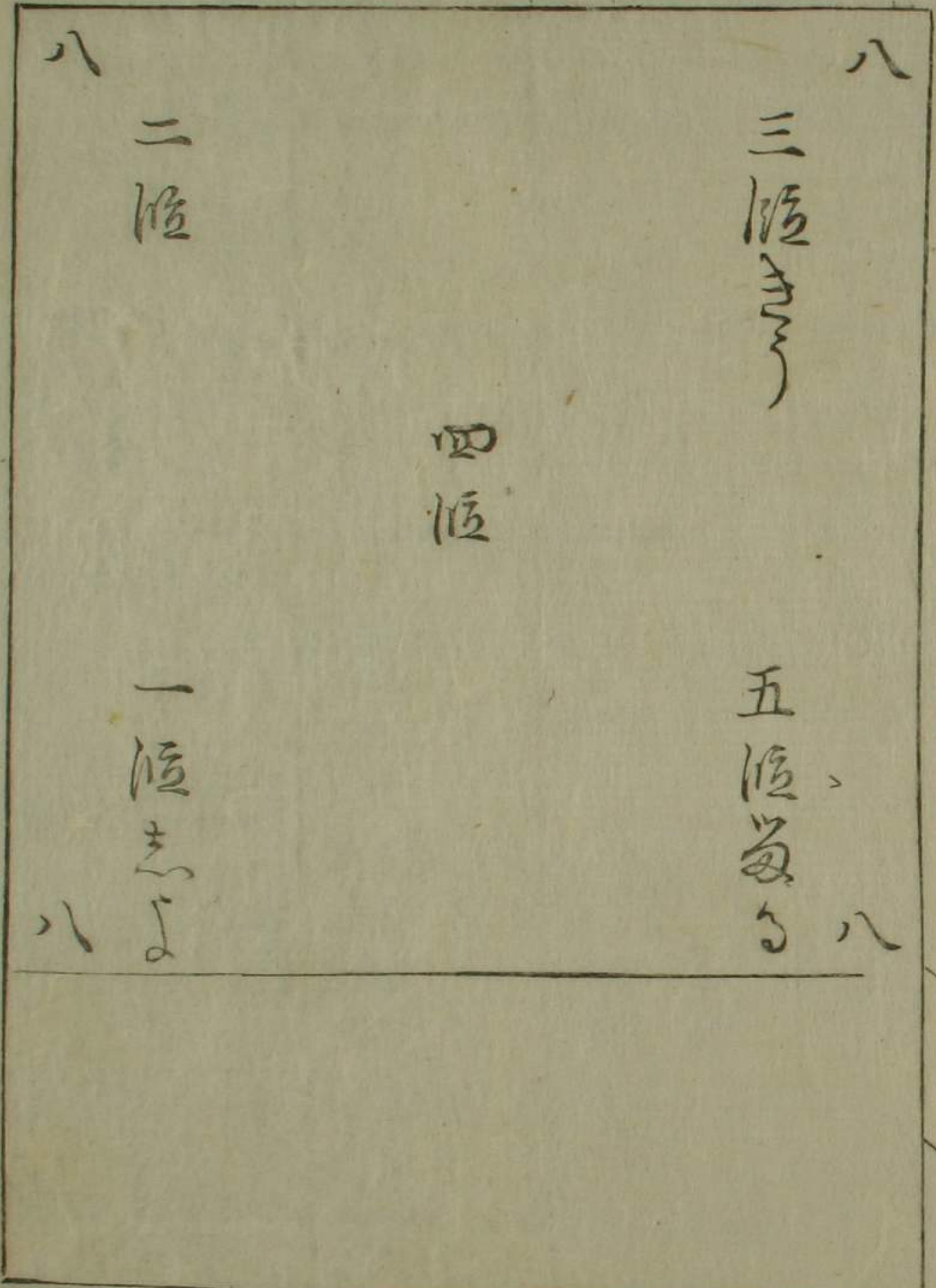
序乃舞幸何是也るいりれ世

芭蕉升箇

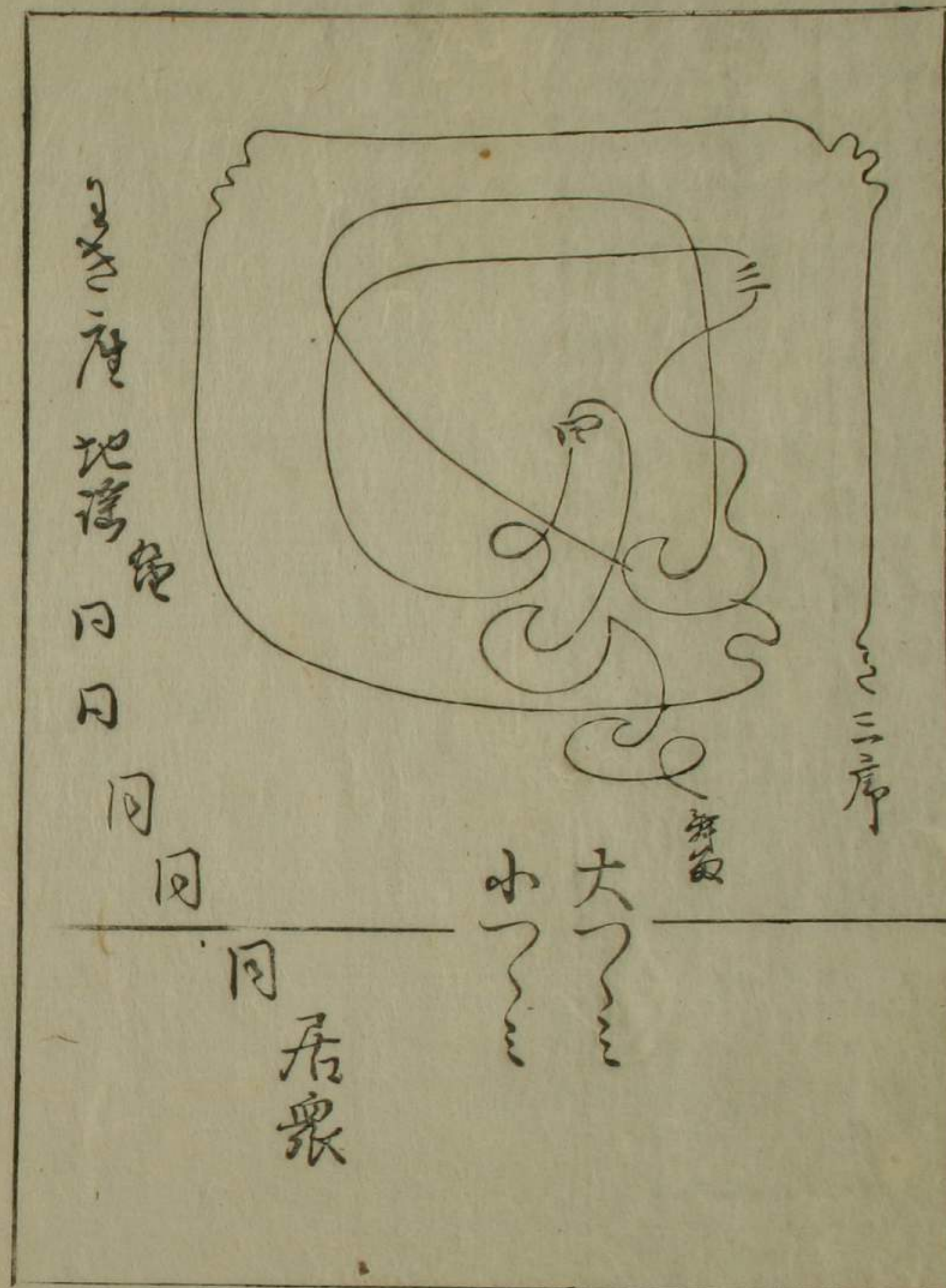
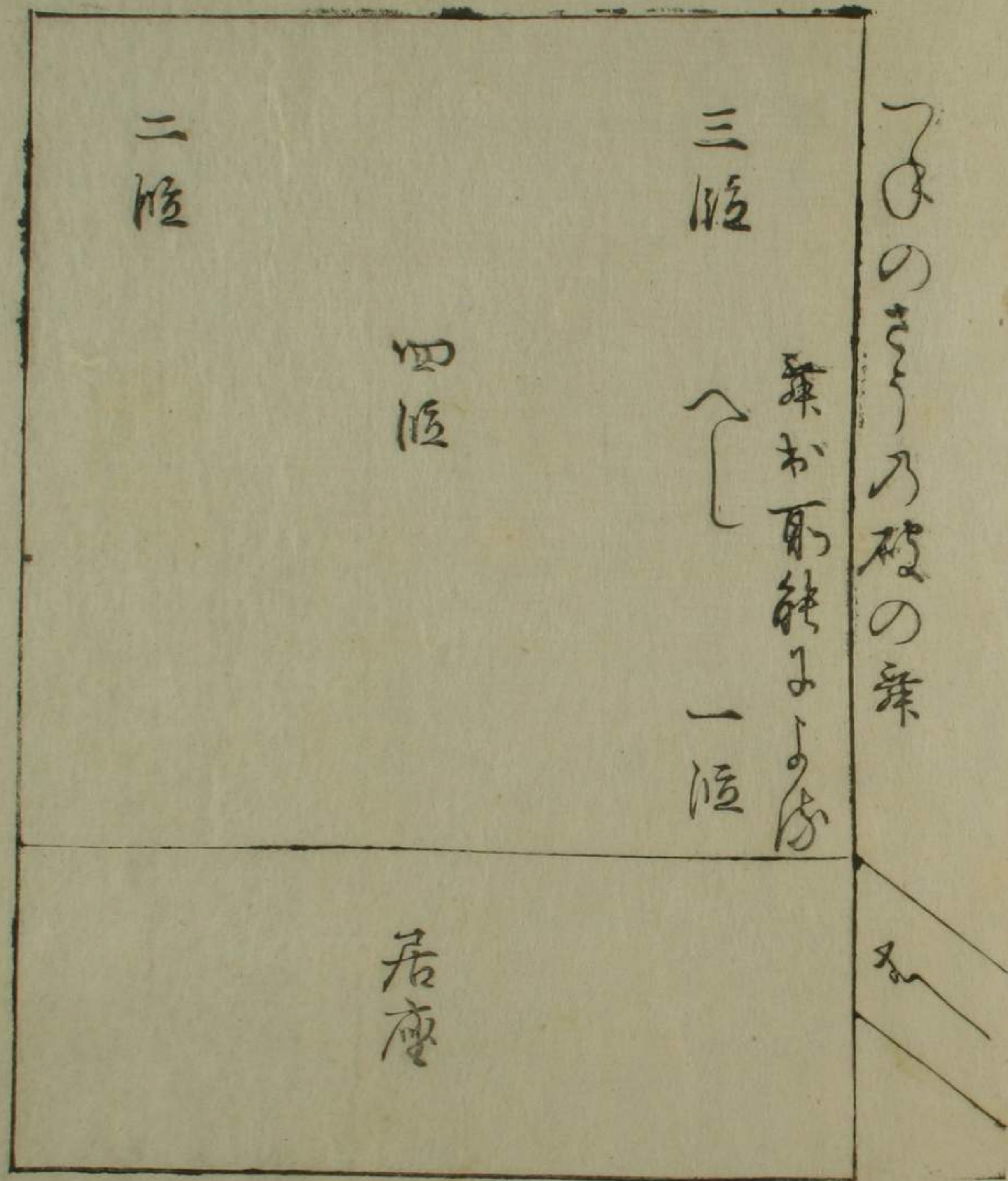


夕う弁

舞の宮
 二人節
 子安
 東山
 を一か
 班女
 定家
 江口
 船うか
 うめ
 誓形寺



綿木
 松村
 小河
 正行
 安達
 但あこ
 う大聖
 舞とて
 舞の心
 かちうか
 位ハ同
 物也



一 縁乃うちようたちとつめ事ありこまに
けいこもてぬかして自然のころあくひなわ
ちまの上よきうをあらうさうん人のなわ
らうぬる也さうん難あつとまよて申すなわ
らう上よのうろひよてまやものりは舞も
およあまこわとちまの物ころき討ころ物
なわたと柳乃春の風よ一ゆもままてきり
とあきあひけころりしこよらよまたを
ふふこひり志家をあらせしつを討たも
大まのあり城見せせいを入程のり直して
い物ちりけなるおわあまあこなふさく物
なわ目をふさきぬまこい志直まわらう

さこまちまうしたをやうなる物也まこめ
あけくしてうちうへあゆもさこまうまこ
すつらとらまうすこもあかあぶ
物也さうんうちてつね物あてらうちよ
のりころとめをふさくるは是一大事の秘
なわあこひなわ

まくきいの習ひ女のねいまくきいのり五尺
かともあつてつてらありき上らあちとまく
きてはへこひへし狂女いまくはへらつて
席破意よふあへ

- 一 ちや物と三尺ちうりへてら
- 一 鬼むきいまくをあきるとやうていけり也

一 つつと進ましても席と尸のまゝきこえし破と尸の
中此意と尸のまゝくちりきこ也

一 まくのうちとつるあゝひあわ是おる時の
うが乃もちやう也おき海あさまおきいろれ
終えてくまてあてきある終也出さまよさあつ
へけ進いのふまんとてのちまて終出まら
ものなわ是才一のあゝひ也先まきこきこり
乃ろまてさて男なわををーうかもち成
さゝめこーをまへさうけらりをかまへてあ
めんまひきけくろひさてまをあきさせ
おはとき天地和合たたの目けうひとつふ
あわおは時とをくくと見渡しうへい志るぬ

うちみしるなりまゝあゝと成うと見さて
やうしてたをまて目けうひをーうかもちを
さゝめてつうはなわ鬼あゝいををあゝくと
まゝ乃うちをすゝなり一せいのりてもあま
次第もてもあま何やとゆきいけくまてうま
いゝまへしとき時えうーとこらむひよ
さゝめて出くうへひんい志そいあひあき
物なりすくはたへーうき橋かりあうき
さゝめりぬのぬ持けりあゝも

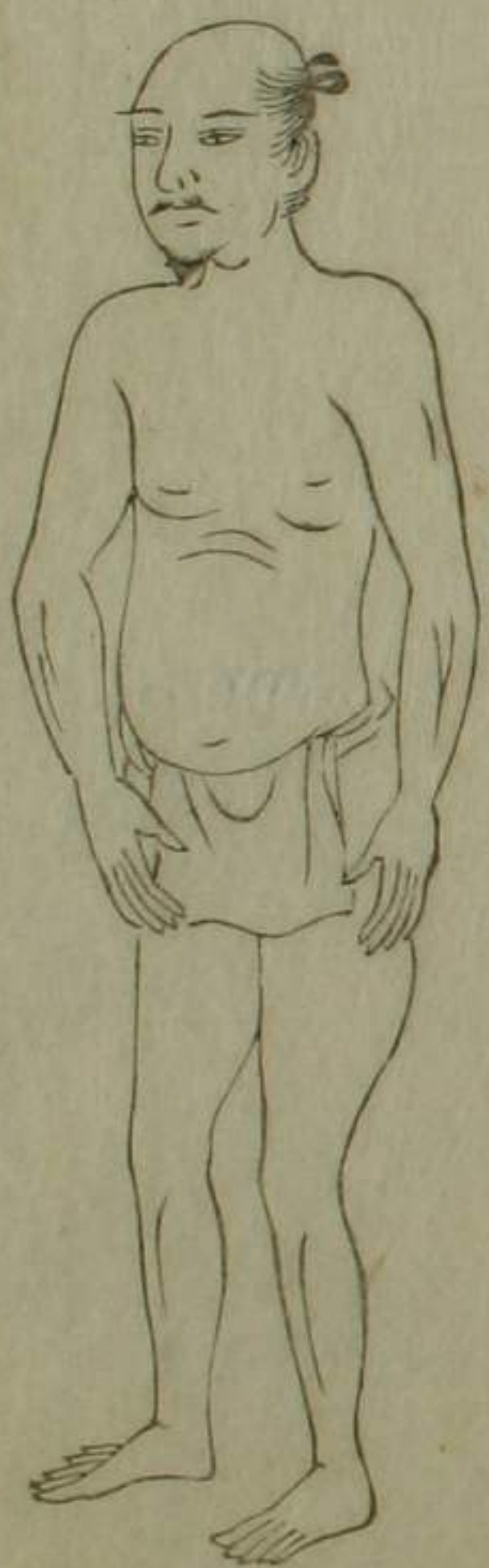
一 一 けう次第あゝはおは終けうひぬけるまぬ
やうふこゝろけりあゝ也

一 け図をいつまもてまゝさゝをあゝり

一乃はあやういひさのあやういひの
 持やうとくえあうゆるあかまんとう所らわ
 うき志る一侍る也けまき我子よりあたとひ
 一の才子うりとりよともしみまへるびとらに
 繪圖を見うてもかてんゆきらひあへ所て
 みくゆーくう人い是り秘書とて不實をかく
 まをゆつておくとはしる道も目乃おれ事一也

一ノア一

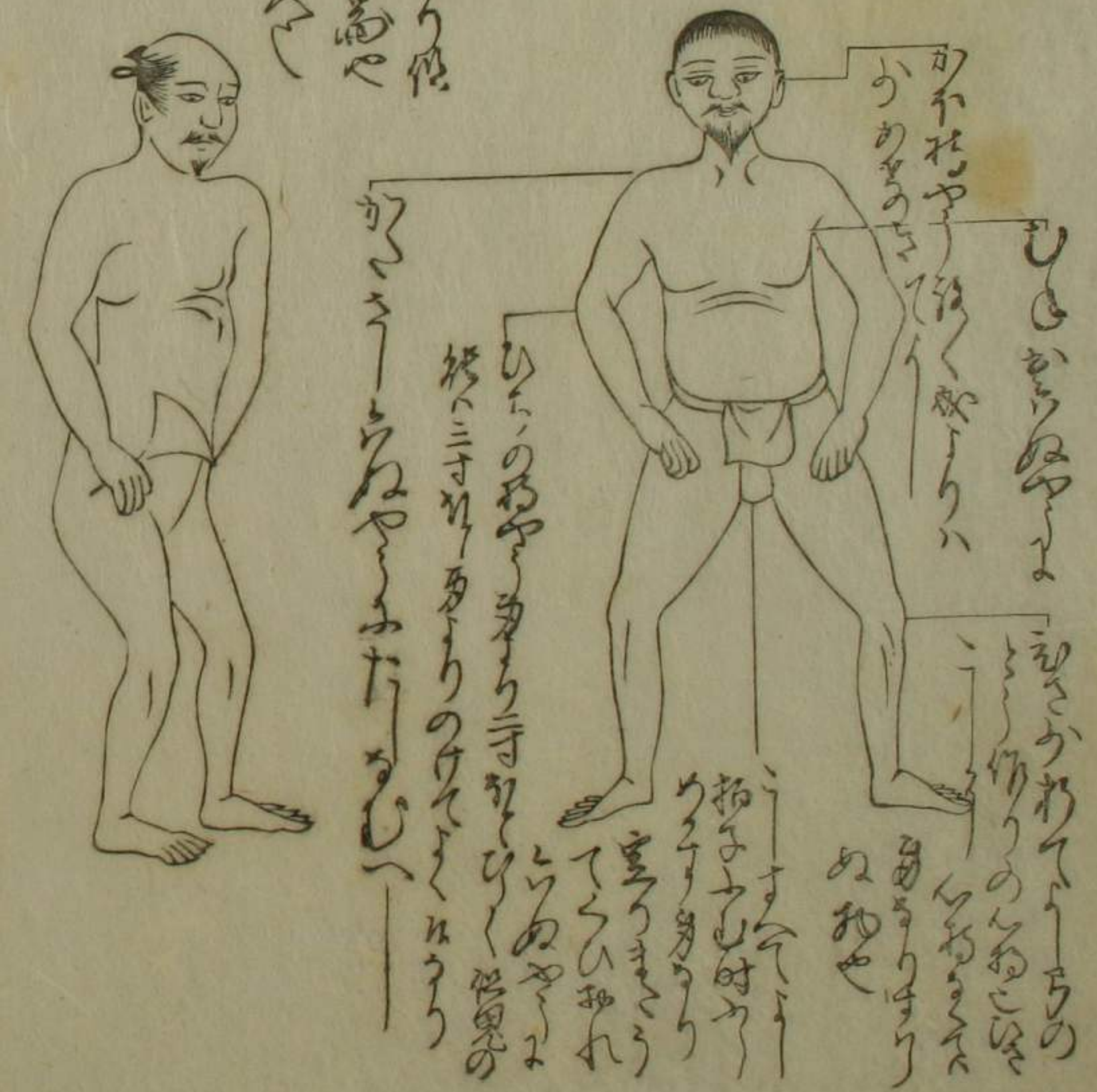
一乃はあやういひのあやういひ



一乃はあやういひのあやういひ
 ひまもすういひんあやういひ
 一乃はあやういひのあやういひ
 うまてあやういひのあやういひ

はしり作りをしては
ちりちり椅子を
こすつたりや
之をこすつたり
のひきつるの

はしり作りをしては
ちりちり椅子を
こすつたりや
之をこすつたり
のひきつるの



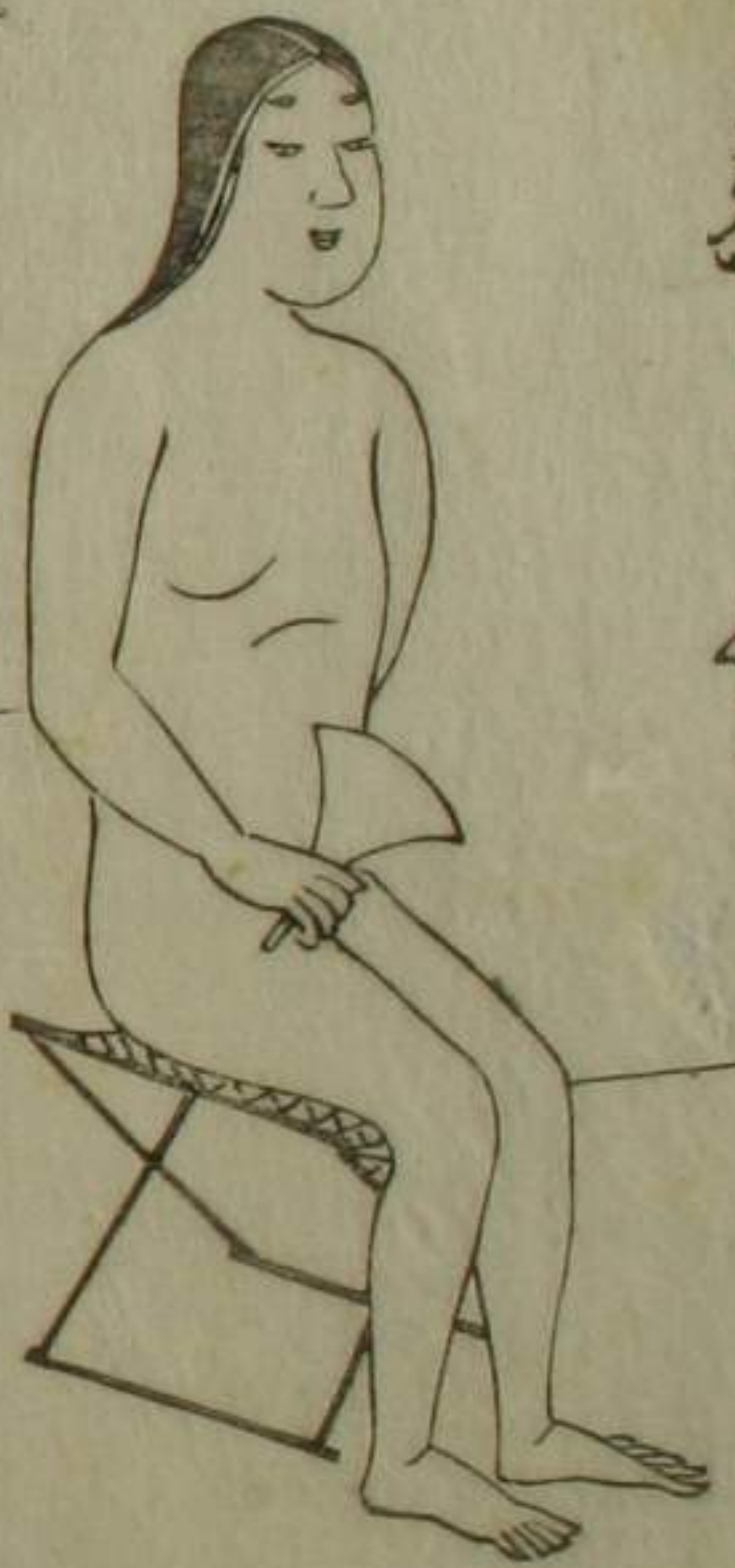
又ノ四ノ二

三橋
楊子記
此の人の形は如何に
けしき作りてある



かたや
かたや
かたや
かたや

はく夜を家のほれほりのゆりあがり泣き
 びそゆりのひきこころみよせんりのこころなき
 知しよぬむとをさやくうらまのあはれしん
 りさうあめらうり



りさうあめらうり
 知らぬにけしひらあめ
 けしひらあめらうり
 りさうあめらうり

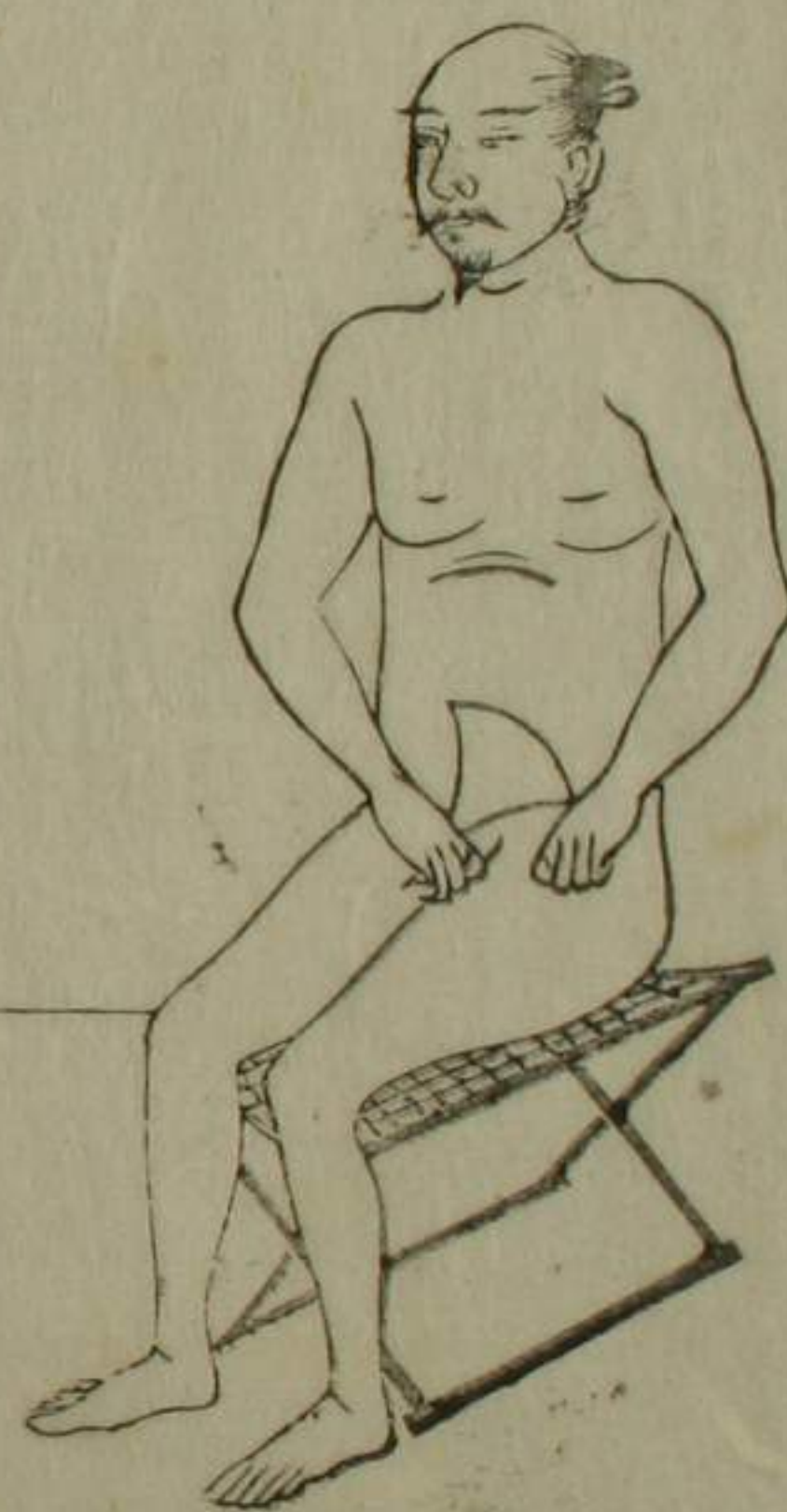
鬼又にあくせうあうみくろひきと大しひて
 めけしんりのうけしんりあひあひあひあひ
 らしんりのあひあひあひあひあひあひあひ

いまれのかきん三寸
 りさうあめらうり
 りさうあめらうり
 りさうあめらうり



りさうあめらうり
 りさうあめらうり

男終まのかけ



ひさのあきまより

ひさのあきまより
ひやく五寸ふたね
せはくしてよ

せのちいさ
せのちいさ



せのちいさ

せのちいさ

世のたぐひもつゝのやうに
 けいけいしつゝあつゝのやうに
 高きまゝにけいけいしつゝあつゝ
 のあつゝのやうにけいけいしつゝあつゝ
 それゆゑある



女房のちいさなあつゝのやうに
 けいけいしつゝあつゝのやうに
 高きまゝにけいけいしつゝあつゝ
 のあつゝのやうにけいけいしつゝあつゝ
 それゆゑある



よあふはものなり月を足し花をきてとりふ
時をさ字よあふみまひのたを足る也字二
三つまふしとていよきころようこひり
のひも物なり是をひなり秘事也

一 女終に拍子をあむ事なくあまぬ物也何の
終も拍子いまひもあむ也且きりよき分
なりこころなり人のいろきりぬやうり
男なわのくつまふもぬ様よふむこころ熱身を
ゆわりけあふくならふむる女は似合まふ
こころ一きこふなりぬこころ
一 行くわさけうぬわきと云るこころつらきも
るり乃文句よまふこころわき乃仕舞ぬ肝要也

目つけの条は是一大事乃秘事なり
一 花を見るめつふも物なりこころ執心をあて
こころをとめてみるこころまふなり人を見る
めつこひ同あ

一 庭の花まふきのむあふちかく見るへ
みこころのまき花もぬたあるこころは傳
はかこころもさうりなる花ちりころあとの
見やういづけちりあふこころは傳

一月をみよめの事一秋の月いづつあもふく
たもこころも見るなり花月いあまりこころを
つけ執心はあまふこころ物すきまふこころ
なわ山乃端の月いよまふこころとあつむる

まちえそくましくめつ〜きあるいん人也
 一 入月いづよも乃くわねなく志くあつる風情
 こゝろけかんよう也
 一 思ふ秋の月あとい右の心もちよちうひう
 めく月を思ひく心付也
 一 勝の月雲居此月三ヶ月を明の月乃こまは月
 いしきも心付き口傳
 一 くらも月く月いづれくやうんと定めすて
 うかひひとほへし
 一 海上よりうづ月あまうけの月まゝ水城見そ
 きて月を見ゆるあまひ也けき城みてあまをい
 見ぬものなり

月花乃見やう大形めは

一 鬼祓のめけくひいふも片よく見そし一人乃
 めつうひちうあへし女あといづよもゆよ
 志んよ見る事あまひ也まき里ちうきささと
 海よりやまを見るふらわ海城見るいづれも
 めけくひ口傳
 一 ゆやのあけゆくあとの山見してとりふ取乃
 仕業人よりのゆりと東夜みは是ひの事也
 あきゆくゆとりあせんあ一あをみまの明り
 あとのせんあわまの經書堂いこまかとの見
 やうつりまの目も上面いづれくへもあま
 一 たを見ゆるわ清あへまづりく人いひくわ

なりめむのたぐぬ物却一能をいやくは人の
名所四柱をといれす角ちうひもまねやうり
こつつけみるとををいやくねかへまことぬ
とこつらひ人またつひすくううけ肝粟也
老松まひうりまるとるんの里んたうあわと
つふあま乃たをいふたよこの四柱あり
とつふ取いたま乃ひくわをみは事あひ
なり子細い社壇の左右乃ことまきい大夫の
右い社壇乃ひくり大夫のひくりい社壇の右
なりあひひ也山邊れまひくけまと云取い
志こ成見答まひくきとつふあひう人を見は
皆人ことふ巖とりんの上をみる答とりん

下成見るあひひゆりき人乃すりるなり
答ましい又下をみるあひ巖成みはましい
下を見るまゆりてげ見やう也成積のたぐぬ
終ことふい建もあまとも成積よりきこそ
くいそてもあくらるこまとあて百番二百番
をも分別まへしうろ成まわさるへし

一あつき就神帝釋なとい面うけぬおさあき物
あまみきせぬものなりましううてのふ
あまやうなる物なり天女揚考妃おはめん
うけぬあまともうけうう

一る成さお直のりあまあてま志やめんま
お應志うり小神はをへしはいはかおわ

をとれ面成りけりへ南流いおかひくくの
ひんをとれあつかもてする太和がりの
志願くまをかゆくなり

一 大徳日き男日き僧わさ山伏服陰陽師をと乃
わき人あき人船頭山賊をとつろくのわき
ありそれくのそらもちかえよう也つひ乃
ふりけうましく乃大徳を思ひ出くかあふ
よく志よするもの也但又いたくあまわり
すきころも見ふくき抱なわまかきん肝要也
けいこゆめりていなわかてけいこ考れ
たりあまよあり

一 いのりわき山あり乃いのりちうあ陰陽

考僧を僧なとの初とちうあ陰陽の初と
候評をれいろれうろへあるあ山ありの
いのりいほよくあくとむろろけよ初る
る一貴僧を僧のいのりいづふも真よいのり
あ一是をいひなり

一 僧日きののち座主阿智梨僧都をとひひの
僧ちうあおさいもちそましく乃位よあり
か別をあし

一 つひれ僧日きつろあり猿僧位取乃僧のちり
くたり乃僧者いもちちうあ死ふろめそ
みやこよけく僧い持まき抄部口傳

一 男わさ強倉屋の清り代有清まけふとく名宗

わき又何乃あより一あとい名繁わき又船頭
本よりすこやき山より里人よりやうれたくひ
つりもも心持わきよかたは也勿論志しそ
大きよ替へし市代女あといあのはいまく乃
うち志れり小橋わきをくくしあゆも
けたく名繁へし何のあより一あとい名繁脇
市代女市代女よりすこあきくはたへし
里人あといわがきよちふへし一まくきい浅く
うるくといはるなわ舟人本よりわき見やき
あとい一わきまくきい乃かぬひもあ一名繁
あきく名繁わきつて打つけるくくわくは
ちうよりや一き物乃名繁いわく一しよま

うちあける事一はものあといひ也上たりき人
貴僧の僧のあのをとり一うたわくをきと
まよああをんそ時程云のこえあわてやうて
あのはへ

一儼乃市能市取屋あわとも我身は相應志こは
るをもちあをせはひとのりりるをよて小袖
あくもあは製束もてもあまそ太史のころよ
似合さたたりくみく藝成もるよりくく斟酌
まへ一そ身の藝中かよ見ゆが物なわわくく
斟酌まへしうりあう一考人の清ノ意なりい
不及是地る左様乃ともあものを志しさゆ人
うと見ん今を終りてきあといり物な志しね

人の批判也なり物類のわづらざるもちありん
うわらざるのあもねもてうちわづらひて藝いすを
ももきこえまききなり

一定家乃はのおち乃るむりーいつこころの
なを表しもえきれちやうきんをきこりたる
成は花傳書を流くきりりれりこむ
さき乃ちやうきんよさこむき子細い定家乃
ちまゝ式子肉親玉あてまゝいほ乃依り云
あまゝ雲井乃屯の袖むりー成いよふりんを
あるとりのほの成なり式子肉親玉いりへ
葉中より入る時のありき海をは僧よ七具と
りわりよふんをてまるふて流らせんきり

さきいむりさき乃流衣可流る

一あつちり乃めんちこめんをわづらとちよりき
こわせりよは中ぬれ面わくはこまひりき
なわあつちりいいまゝ元服ーたまいさ
ゆへよむくまんの大夫と号せりりゆへ
よりて兎面成もちりる也

一篇ひーきりてより次第を打つてりそれ
終るまて一蕃のあひひき舞臺よりわかくや
より色一切出入せぬ物なりわかく屋へい
より出入程云乃るより物なりわたくし大夫
中入を修り物の中へ入かく屋へりりぬ終
物なり時い大夫のきりゆる面いさなり

うくやふりうくひのうちよ持て狂言大夫の
きつり幸ありけれいふゆいひも外い
一切度前あるうぬ物也りりそめりまやまも
えやうまりてまらふまて抱いっけ湯蒸
をものまゆふあまういりうそくれ志ん候え
とも一火候うきつりゆるまてえ層一いあよ
きたりこや乃時い諱而志んよなり藝する
人もきく人もうまよいをつけりいといわ日き
法藝子かんあゆもの也

たつりまをばいしとあきえりひあけむ
百百五十ヶ条なりもふあといの絵圖
まこつ人形ありとあうゆる仕舞習ひ

大事わがうくこれ巻よりきき志るま
和い親世言阿弥今ま善作やう志やう
連阿弥金剛そうせり太四人乃きこめ
通い末代よをわいげ花傳書のかうい
皆わこく藝ころいし後乃世よ法藝
名人たきてわまのうあまうり
なりんりん君いまめれだめ小大形
かろのし

